

ない」「ベッド数が足りない」そんな救急医療の現状を知った。

救急科医としてできること

ちょうどそんな頃、前橋赤十字病院の高度救命救急センターがドクターヘリを立ち上げることを耳にする。病院に運ばれる前から治療を行う「攻めの救急」ができるかもしれない。また、救急科医が1人増えることで、1人でも多くの患者が救えれば。そんな思いで、平成20年4月、前橋赤十字病院高度救命救急センターに着任する。

「やはり救急科医の数は絶対的に足りていません。さらにベッド数や受け入れてくれる病院の数などの問題もあります。でも、それを理由に診察を断りたくありません。診察してからその先のことは考える。診察しなければ救える命も救えませんから」



丁寧に頭部を縫合する



モニターを見ながら患者の状態を確認



到着した救急車に飛び乗り患者を下ろす



がつないでくれれば、後は僕らが引き受けます。そのためにも、市民向けの救命講習会などを医師が行っていく必要があると思っています」

体力勝負の現場

休みは月平均6日。そのうち3日くらいは研修などのインストラクターを務めるため、本当に休めるのは3日程度。通常の勤務以外にも、月に6回程度当直勤務があり、激務に追われる毎日。

「昼食を食べない日も結構あります。家族と過ごす時間も限られていて少し寂しいですが、妻は仕事に手を抜くと言ってくれます。これから他の医師や看護師などとコミュニケーションを取りながら、冷静かつ素早く最善の治療を行っていきます」

午前10時40分、別の患者が運び込まれると、すぐさま治療に当たる町田医師。この日の救急搬送数は19件。掛け替えのない命を救うため、救急科医は今日も奮闘している。

Pickup

応急手当を学ぶ講習会を開催

救急車が到着するまでの間、そばにいる人にもできることがあります。本市では心肺蘇生法や止血法、AED（自動体外式除細動器）の取り扱いなど、救命に必要な応急手当を学べる救命講習会を開催しています。次回の開催は次のとおりです。

問い合わせは 消防局警防課 ☎220-4513

■普通救命講習会

日時=1月22日(日)午前9時~正午
会場=消防局
対象=本市に在住か在勤の中学生以上、先着40人
申し込み=1月11日(水)・12日(木)に消防局警防課へ

scene 02

群馬大学 重粒子線医学センター



写真はイメージです

現在、日本人の2人に1人はがんにかかり、3人に1人はがんで亡くなっています。しかし、その治療法は日々進化しており、さまざまな治療法が医療現場に登場しています。本市には群馬大学重粒子線医学センターがあり、国内に3カ所しかない最先端医療技術・重粒子線がん治療を行える施設として注目を集めています。

群馬大学の重粒子線治療

放射線腫瘍学・核医学の領域で全国をリードしてきた群馬大学は、昨年3月、県との共同事業で重粒子線医学センターでの治療を開始しました。切らずに治療し痛みも少なく、副作用も少ない重粒子線治療は、治療期間が従来の放射線治療に比べて短いことから、早期の社会復帰が可能であるといわれています。

病巣だけを狙い撃つ

重粒子線とは放射線の一種。放射線は、空間や物質中を光の波や、粒子の形（粒子線）で伝わります。粒子線はその重さにより陽子線と重粒子線に区分され、ヘリウムより重いものを重粒子線といえます。

治療では、光速の約70%に加速した重粒子線がん病巣に照射し、がん細胞を破壊します。従来のエックス線による放射線治療では、体の深部へ入るに従い放射線線量が減少するため、がん病巣の手前や奥側の正常な組織まで傷つ

けることもあります。それに対して、重粒子線治療はその特性上、病巣の位置で線量を最大にし、病巣だけを狙い撃つことができます。

さらに、重粒子線治療は従来の放射線治療に比べて病巣への効果が強く、これまで効きにくいとされてきたがんなどにも効果を発揮しています。現在、重粒子線治療による効果が明らかなのは頭蓋底腫瘍や頭頸部（顔の奥側）がん、肺がん（1期）、肝臓がん、前立腺がん、直腸がん（手術後の骨盤内再発）、骨や軟部組織（筋肉や脂肪、血管などのがん）の腫瘍などです。また、効果が期待されているものに眼腫瘍、すい臓がん、子宮がん（腺がん）があります。

費用と補助制度

治療には、先進医療費の314万円のほかに、健康保険が利用できる検査・処方・診察費などが必要になります。なお、本県の人が治療費を金融機関から借りた場合、利子の一部について補助が受